

後期臨床研修プログラム

一般的臨床能力を養成するとともに、消化器疾患の理解、正確な診断、適切な検査の指示と専門的な検査・治療の実際を修得する。

【一般目標】

すべての医師にとってコアとなる、一般的臨床能力を養成することを目標とする。

1. 電子カルテに則した、医療記録の的確な記載が出来るようになる。
2. 患者・家族に対して、疾患・検査・治療に関する適切な Informed consent を行うことができるようになる。
3. 疾患に関する検査法・治療法などの、より深い知識を修得する。
4. 検査法について正しく理解し、その結果を基に正確に診断する能力を身につける。
5. 各種専門的特殊検査・治療の補助を行うとともに、それら手技について自らが行うことができるようになる。

【行動目標】

初期研修で身につけた基本診療手技を育成し、さらに消化器・肝臓専門医として必須の知識・診療手技を身につける。

1. 心肺蘇生法(気管内挿管も)を含む緊急処置法を適切に行うことができる。
2. 腹部救急疾患の鑑別診断を含む一次対応について理解、実践する。
3. 病態に応じた水・電解質・栄養管理を適切に行うことができる。
4. 胸腹部単純レントゲン写真、CT検査、MRI検査、腹部血管造影、シンチグラフィなどの画像診断の十分な読影ができる。
5. 手術適応の決定、放射線療法の理解と指示、抗がん剤療法の適応と副作用について正しく理解し、実践できるようになる。
6. 消化管X線検査、上下部内視鏡検査、腹部超音波検査、肝生検、内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)について正しく理解し、主担当として実践できるようになる。
7. 消化管疾患関連手技(消化管腫瘍の内視鏡的切除術、内視鏡的止血処置、胃瘻造設術、APC治療など)を正しく理解し、主担当として実践できるようになる。
8. 肝・胆・膵疾患関連手技(EISなど食道静脈瘤治療手技、ESTなどの内視鏡的治療手技、PTCDなどの経皮的ドレナージなど)を正しく理解し、助手として関与するだけでなく、主担当として実践できるようになる。
9. 消化器疾患のマネジメントを正しく理解し、主担当として実践できるようになる。

後期臨床研修プログラムコースパターン

1年目	2年目	3年目	
消化器科	肝臓	消化器科	肝臓
肝臓	消化器科	肝臓	消化器科

消化器科研修週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	腹部エコー	外来診察	腹部エコー	内視鏡（上部）	内視鏡（上部）
午後	病棟	ERCP	病棟	内視鏡（下部）	内視鏡（下部）
			カンファ		

消化管合同カンファレンス：1回/月（火曜日）

（消化器科、外科、放射線科、病理）

胆・膵合同カンファレンス：1回/月（金曜日）

（消化器科、外科、病理）

肝臓研修週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	内視鏡（上部）	外来診察	内視鏡（上部）	腹腔鏡	腹部エコー
午後	病棟	エコー下 穿針	E I S	病棟	エコー下 穿針
				カンファ	

肝臓合同カンファレンス:1回/月(木曜日)

(肝臓、外科、放射線科)